

令和5年度海外事務所研修報告書

ボランティアの新しい潮流

～オリンピックからコロナ禍、生活費危機への対応～

一般財団法人 自治体国際化協会 JET プログラム事業部研修・カウンセリング課

主査 熊本 美保

令和6年2月

はじめに

自治体国際化フォーラムの寄稿「ロンドンオリンピックで活躍したボランティア」¹に触発されて、2017年の研修派遣の際にロンドンオリンピックで活躍したボランティアの5年後の状況について調査を行った。²オリンピックが開催都市に残す社会的、経済的、環境的な利益、即ちオリンピックレガシーが、5年後においても継承団体を中心に継続している様子が明らかになった。ボランティアが社会的資産としての存在感を示していることに深く感銘を受けたため、この度、同じテーマでその10年後について調査を計画した。ところが、現地では状況が変わっており、取材が難しい事態に直面した。GLA (Greater London Authority) ³を始めとするレガシー継承団体⁴や前回取材を有識者に連絡を試みるものの、取材の扉は開かず難航した。コロナ禍によるロックダウン、また、現在の生活費の高騰等が市民社会に大きな影響を与えてきたことは容易に想像されたが、代わりに新しい形態のボランティアが盛んになっている状況に直面し、これらの動向も含めて本レポートで報告する。

¹ 自治体国際化フォーラム 海外事務所だより 「ロンドンオリンピックで活躍したボランティア」(2014.11)

² 筆者レポート 2017年度海外事務所インターンシップ研修 帰国報告書 「ボランティアについて~ロンドンから学ぶこと」

³ <https://www.london.gov.uk/>

⁴ 2012年ロンドンオリンピックで高まったボランティア活動の気運を継続する目的で設立された諸団体。主要組織は、Join in, Sports England, Team London, Spirit of 2012 等がある。

目次

はじめに	1
第1章 2012年オリンピック・ボランティアの持続的影響	3
第1節 大会後のボランティアの維持率について	3
第2節 市民社会の変化	3
第2章 Goodgym - 新しい形態のボランティア	5
第1節 起源とコンセプト	5
第2節 プラットフォームの活用とコロナ禍における対応	5
第3節 ボランティア体験記	7
第3章 フードバンクについて	9
第1節 現代の生活費危機とフードバンクの役割	9
第2節 運営と多様な形態	9
第3節 「PL84U AL-SUFFA」の事例	9
第4節 訪問レポート	10
おわりに	11

第1章 2012年オリンピック・ボランティアの持続的影響

第1節 大会後のボランティアの維持率について

まず、2012年のロンドンオリンピックでのボランティアの持続的影響について述べる。ロンドンオリンピックでは約7万人ボランティアが参加し、大会運営をサポートするだけでなく、その空気を盛り上げ、大成功の立役者として敬愛を集めた。ポジティブな経験が参加者に深い影響を与え、その後も継続活動が活発に展開されていった。複数の継承団体がリストを引き継ぎ、GLAも継承団体の1つとして大々的にバックアップし、2017年地点では、サティック・カーン市長より TEAM LONDON⁵における大会ボランティア維持率は65%であるとの発表があった。

オリンピック後の醒めない興奮と情熱は、5年後の2017年時点でさえもその名残を多く感じた。GLAは、TEAM LONDONメンバーを、様々なイベントへの参加を促すために、多様なインセンティブの提供と工夫により、その持続継承に努めてきた。例えば、大規模音楽イベントのボランティアを募る際、ユニフォームの貸与やそのイベントチケットをインセンティブにする等、ポジティブで心豊かに活動ができるようなマネジメントを巧みに行っていた。⁶滞在先の大家さん夫妻からは、ロンドンオリンピック時に感じた温かみと誇りに満ちた感情、絆、そして共有された喜びについて話を聞いたことから、ロンドンオリンピックの影響が広範で深く持続的であることを実感できた。

第2節 市民社会の変化

次に、この数年間で起きた社会の変化について触れる。コロナ禍によるロックダウン、また、現在の生活費の高騰が、市民社会に大きな影響を与えてきた。これに伴いボランティア活動の焦点は時代や社会の影響を受け変化していく。ここで近年の変遷を振り返り、3つの時期について考えてみる。

1 オリンピック後

まず、2012年のオリンピック以降、スポーツを通じた国際的な連帯や親善を促進するためのボランティアが注目された。ボランティアは、各国から集まる選手や観客をサポートし、大会の成功を目指すための多岐にわたる活動を担った。この流れの中でオリンピック・ボランティアは、スポーツを通じて人々をつなぐ力を具体的に示す存在として脚光を浴びた。終了後も複数のボランティア継承団体は、大会時のボランティア経験者に積極的に働きかけ、更に新規参入者を巻き込みレガシー継承の動きは活発であった。

2 COVID-19 流行期

⁵ 2011年に開始されたGLAのレガシープロジェクト。オリンピックレガシーとして、オリンピックのボランティア経験者に引き続きボランティアの機会を提供してきた。

⁶ 脚注2の筆者レポート参照

次に、2020年に始まるCOVID-19の大流行以降、イベント集約型のボランティアは火になっていった。並行して、オリンピックレガシーとしてのボランティア活動も困難に直面していく。この期間、各継承団体がボランティアのデータを正確に把握することが難しくなり、活動の一貫性が失われていった。レガシー継承団体の1つである Sports England⁷の Strategic Lead Volunteering 担当者 Jenny Betteridge 氏からのヒアリングによると、時間の経過とともに連絡先が散逸して行ったこと、継承団体間での一貫通貫したデータベース構築の失敗等も要因として挙げられる。

しかし、未曾有の危機に直面したイギリス社会において、ボランティア活動の重要性は格段に高まっていった。欧米に根ざしたボランティア精神が、孤立した感染者や自宅で療養する者への支援という形で、社会的な連帯を促進する原動力として機能した。後述する GoodGym もその活動を柔軟に調整し、この困難に対応している。このような状況下で、ボランティアの行動を称賛し、その貢献を認める文化は、団結と相互支援の精神を育む上で欠かせない要素として浮き彫りになっている。筆者の6年前の調査時の協力者であり、ロンドン自治体ネットワーク会長を務めるタワーハムレット区の職員、大川恵子氏からのヒアリングによると、自治体はボランティアへの感謝を表すため、貢献した人々に盾を贈呈するなどの顕彰活動を行い、ボランティアを褒め称え、常にモチベーションを高めていくことの重要性を強調している。2012年以降のオリンピックレガシーとしてのボランティアの盛り上がりは、2020年のCOVID-19パンデミックにより潮流の転換機を迎えた。

3 生活費の危機 (Cost of Living Crisis) の深刻化

更に、経済状況の変化も、社会に大きな影響を与えている。2022年10月の消費者物価指数は前年同月比で11.1%上昇し、エネルギーと食料品の価格上昇が顕著だった。これにより、中間層でさえも生活費を削減し、フードバンクを利用して食費を浮かせるなどの経済的困難に直面している。12月に物価上昇率が多少鈍化したものの、依然として高い水準が続いており、社会的支援の必要性が一層強調されている。このような状況のなかボランティア活動は失速した。Community Life Surveyによると、ボランティア活動の参加率が16%となり、前年と同等でありながら過去最低の数値であることが示されている。

生活費危機が深刻化する中、日常の生計が困難になっている人々を支援するボランティア活動が増加している。特に、フードバンクは経済的困窮に直面する人々へのライフラインとして必要性が高まり、生活支援を重点とするボランティア活動が新たな注目を

⁷ <https://www.sportengland.org/>

集めている。⁸

上記の変遷を通じて観察される新しい形態や潮流があるボランティア活動は、時代の要請や社会のニーズに応じて展開してきたことが分かる。また、各時期におけるボランティアの役割や活動内容は、その時代の社会的課題や価値観を反映しているとも言えるが、2つの例を紹介する。

第2章 Goodgym - 新しい形態のボランティア

第1節 起源とコンセプト

この市民社会の変動の中、一方で新しい形態のボランティアが生まれてきており、その一つとして GoodGym の事例をご紹介する。GoodGym とは Good (善行) と Gym (運動する場所) の意味を組み合わせた、ユニークなボランティアグループである。2009年にランニンググループから発祥し、ランナーたちが、仲間を作りながら、人々を助けるという活動を行なっている。

第2節 プラットフォームの活用とコロナ禍における対応

この仕組みでは、ランナーが名前や活動拠点といった基本情報をプラットフォームに登録し、一方で援助を必要とする人々は時間、場所、助けてもらいたい事柄を投稿する。ランナーは可能な時に可能な範囲で行える活動を選択し、助けを必要とする人々とマッチングがなされる。このプラットフォームは外国人であっても即日参加できるほど利用しやすくユーザーフレンドリーであり、ランニングのモチベーションとボランティア活動を上手く組み合わせている。

⁸ Community Life 調査 the UK Government's Community Life survey - <https://www.gov.uk/government/statistics/community-life-survey-202122/community-life-survey-202122-volunteering-and-charitable-giving> - <https://www.sportengland.org/research-and-data/research/workforce?section=research>

We are hoping to see a recovery of volunteering through our own [Active Lives research](#) (page 20 onwards), but many local clubs and groups are still feeling the pressures of the pandemic and now the cost of living crisis. This 2021 survey gives a flavour of what was happening at the time

- <https://sportengland-production-files.s3.eu-west-2.amazonaws.com/s3fs-public/2020-11/Club%20Matters%20-%20Return%20to%20Sport%20and%20Activity%20Volunteers%20Survey%20-%20headline%20report.pdf?yY8k5d81NHbP1o2K7frAvGKycF8xxu6A>

また、コロナ禍においては、GoodGymは運用方法を適応させている。この時期、食料や薬の運搬といった物品の受け渡しが発生する活動に対しては、無犯罪証明の提示、ビデオインストラクションの視聴、金銭取引プロトコルの整備等を行なった。これらの措置により、困っている人々への支援を安全かつ効果的に継続することができた。

プラットフォームでマッチング

①地域

②日付

③地図

④依頼内容

⑤参加者名

ランニングしながらボランティア



(イメージ図)

第3節 ボランティア体験記

外国人の身でありながら、自身もこのシステムに登録し、ロンドン市内の St. George the Martyr 教会において食品配給所の仕分け活動に参加した。主催者の Borough Food Cooperative (BFC) は質の高い食品を手頃な価格で提供しながら食品廃棄を削減することを目指している。筆者は「ショップストックボランティア」として、食品の整理と荷下ろしを担当した。これは軽度な肉体労働でありながら、スキルの習得や新しい経験が得られる有意義な作業であった。

スタッフや活動場所が非常にオープンであるとの感想を抱いた。また、筆者と日本人同僚が突然やってきた外国人であるにも拘わらず、個人情報や過度に尋ねるわけでもなく、排他的な態度も示さず、控え目でありながらも開かれた態度で接せられた。総勢7、8人の中でリーダーが特定されていないにも拘わらず、経験者は新参者である我々に手順を教え、互いに配慮しながらスムーズに活動が進んだ。その中で、独特な暖かさと共鳴を感じたが、この感覚は、背後にあるイギリスの深いボランティア文化からくるものだと感じた。約一時間半の活動を終えた後、清々しい満足感を感じながら帰路についた。まさにその名の通り、Good、良いことを行うことの充実感を得た貴重な体験であった。これは現代の生活スタイルに合ったボランティア活動ではなかろうか。リーダーから指示される、一日中拘束される、という日本でのステレオタイプなボランティア活動のイメージとは大きく異なる。

GoodGymは、ジョギングを通じて社会的問題に取り組む独創的な方法を提供している。このプログラムは、高齢者の孤立や若者の運動不足などの問題に対応するもので、参加者はジョギングをしながら新聞や食料品の配達といった実践的な活動を行うことになる。この活動は参加者にとって、高齢者への貢献やコミュニケーション能力の向上という形で、大きな満足感をもたらすものである。

BFC IN NUMBERS	SINCE JANUARY
KGS OF FOOD DONATED	30391 <small>From PFLUK</small>
CUSTOMER VISITS	6674
VOLUNTEER HOURS	
AVERAGE VISITS PER SHOP	74
VOLUNTEER TEAM	93
STAFF TEAM	2

年間累計ボランティア数 93 名
来訪者 6,674 名



ボランティアには T シャツが支給される



寄付された食品。新鮮で質の高い食料品を配給



肉魚といった生鮮食料品のみならず、日用品もあり品数は多岐にわたる。



色ラベル区分毎に合計 16 品目を選び、4.5 ポンドと格安である。



主催団体：Borough Food Cooperative (食品共同組合) のロゴマーク

第3章 フードバンクについて

第1節 現代の生活費危機とフードバンクの役割

また、現在の差し迫る社会課題は「生活費の危機」(Cost of Living Crisis)である。この問題に触れる際に欠かせない要素としてフードバンクがある。食料、生活必需品、エネルギー価格の高騰の中で(脚注)、食べることに困る層が、家を持っている中間層にまで拡大しつつある現状の中、まちの至る所にフードバンクがある。また、大手スーパーマーケットの店内に購入したものを寄付するボックスが設けられている光景も印象的である。フードバンクの多くは食品の寄付を受け、必要とする人々に配布する非営利の組織であり、ボランティア活動を行う組織の一形態と言える。

英統計局によると英国の2023年5月の消費者物価指数は前年同月比より8.7%上昇した。伸び率は前月比横ばいで、鈍化しなかったのは3カ月ぶりであった。賃金とサービス価格の上昇による根強いインフレへの懸念が高まっている。エネルギーや食品などを除くコア指数の上昇率は7.1%上昇と1992年3月以来の高水準だった。⁹このような状況の中、フードバンクの重要性がより一層高まっていることは否めない。

第2節 運営と多様な形態

フードバンクの運営形態は、駅で食料品が詰められたバッグの配布、街角の店の一角での運営、教会による場所の提供など、様々である。運営組織は全国規模の慈善団体、宗教団体など様々だ。¹⁰これらの団体への取材を試みたが、取材を試みるものの、受給者のプライバシー保護を優先する方針により、詳細な情報の入手は叶わなかった。ここで活動するボランティアと受給者間は時間帯をずらすなど接触しないという形態が多い様子が窺われた。一般的にフードバンクは貧困や食糧不足といった関係者のプライバシーに対して慎重な立場をとっており、取材を避ける傾向がある中、ロンドン事務所の主任調査員 Andrew Stevens 氏の尽力によりウォルサム・フォレスト・ロンドン自治区にあるイスラム系フードバンクが取材を受け入れてくれたので、その様子をレポートする。

第3節 「PL84U AL-SUFFA」¹¹の事例

「PL84U AL-SUFFA」(脚注リンク)は、2013年に設立されたイスラム教の慈善精神に

⁹ <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGR15D0V0V10C23A6000000/>

¹⁰ フードバンク運営団体の一例

<https://www.trusselltrust.org/>

<https://thefelixproject.org/>

¹¹ <https://www.pl84ualsuffa.co.uk/>

基づく団体であり、PL84UはPlates for you（あなたのための食事）の略語である。この団体は多様性を受け入れる寛容な精神を体現したフードバンクを運営している。週に3日の運営で、月間約300人以上の人々が訪れるが、信仰や背景に拘わらず、支援を必要とするすべての人に対応しており、食品や衣料の配布だけでなく、地域のハブとしても機能しており自治体職員との相談スペースや集会をする場所もある。このアプローチは、他では見られない貴重な例として、中心人物のSaira Mir氏はエリザベス女王から表彰を受けるなど、人々に感銘を与えている。

第4節 訪問レポート

ロンドン東部のウォルサムフォレスト地区205a Wood Streetの奥まった路地に位置するこのフードバンクは、宗教、国籍、属性に関わりなく多くの人々に利用されている。運営は7～8人のスタッフによって行われており、毎週火曜日、木曜日、土曜日の15時から17時まで開催されている。来訪者は名前、宗教、家族人数を登録し、食品引換券を受け取った後、多様な食料品を選ぶことができる。提供される食品は多様であり、ハラル食品もそうでないものもあり、各々のニーズに応えるように配慮されている。18歳未満の入場は不可であるが、家がない人々も登録日に来場することができる。

興味深かったのは、ここで活動するボランティアの中にも食料受給を受ける人々がおり、サービス提供者が受給者である場合もある。また、開店前の祈りの儀式からは、この活動が持つ精神的な基盤も垣間見ることができた。この儀式は任意であり、他に強要するものではないことから寛容の精神が見受けられる。更に、単に食料を提供するだけではなく、福祉相談が可能なサポートセンターとしての機能もあり、別スペースが設けられ自治体職員が定期的に訪れている。結果として、ここは単に食事の提供だけではなく、多様性を包摂する精神に基づき、地域社会の絆を強化し心の支えとなる場所を目指している様子が窺われた。



外観



左から2番目が主催者 Saira Mir 氏



多様な食料品と日用品



奥のスペースには行政職員との相談コーナーがある

おわりに

以上がイギリスで見聞、体験したことであるが、我が国の状況と照らし合わせて考えてみたい。日本では、高齢化と単身世帯の増加が重要な社会的課題として浮き彫りになっている。これに対する取り組みとして、イギリスに学び新しいボランティア活動の可能性を模索することは有益に思われる。

例えば、GoodGymのような新しい形態のボランティア活動は、ボランティア活動とジョギングを結びつけており、若い世代に魅力的な参加の機会を提供している。これはボランティアと援助を必要とする人々との間に世代を超えた交流を促進することにも繋がる。また、PL84U AL-SUFFAのようなフードバンクの運営は、物資提供にとどまらず、異なる背景を有する多様な地域社会の中で人々が互いに繋がり、理解し支え合う場となっている。いずれもコロナ危機といった社会の非常事態においては、活動の形態を変化させつつ継続的に運営された。日本でも、このようなアプローチを取り入れることで、高齢者や単身世帯の孤立感¹²を緩和し、多様性を包摂することができるコミュニティーが育っていくのではないだろうか。

最後に、ロンドンオリンピックレガシー関連団体の1つである Spirit of 2012¹³への

¹² 英国の孤独の問題 参考資料

https://www.jlgc.org.uk/jp/wp-content/uploads/2021/12/JIGCSeminar_09122021.pdf

¹³ 2013年にナショナル・ロタリー・コミュニティ・ファンドによって設立され、4700万ポンドの基金でスタートしたレガシー継承関連団体。残された資金、リソース、時間を最大限に活用し、すべての人々とコミュニティーがアクティブで創造的で繋がりのある生活を送るために資金提供し、研究し、学んだことを共有するために設立された。

直接の取材を通じて明らかになったことを基に、ロンドンオリンピックのボランティアのその後について述べたい。この10年間にわたるレガシーは、複数の継承団体を横断し一貫したデータベース構築の試みと失敗、COVID-19流行による活動の非組織化、GLA等のレガシー継承団体担当者の頻繁な交代など、いくつかの局面に直面した。Spirit of 2012のChief Executive Ruth Hollis氏およびHead of policy and Impact Amy Finch氏へのインタビューによると、開始前の計画段階での長期ビジョンの欠如が指摘されており、これがデータを基盤としたレガシーの継承をもはや不可能にしてしまったことは、非常に残念な結果であり、大成功を活かしきれなかったことが窺えた。

しかしながら、オリンピックでのポジティブな自信と経験は、ボランティア大国であるイギリスの土壌を更に豊かにしたと考えられる。これを踏まえ、「現在の多様なボランティア活動の盛り上がりと、ロンドンオリンピックのボランティアレガシーとの関連性」については今後研究をすることは価値があると思う。Spirit of 2012は2024年に解散することが決まっている。それに先立ち、2023年1月に最終レポート¹⁴を発行している。これを基にオリンピックのレガシーを通じてボランティア文化がどのように展開しているのかを探求することにより、我々はより包括的で協力的なコミュニティを築くことの手がかりになるのではないかと期待している。

最後に、調査に協力していただいたロンドン事務所の方々、関係機関、関係者へ感謝を記す。

¹⁴ 脚注 <https://www.tnlcommunityfund.org.uk/media/insights/documents/Spirit-Final-Evaluation-Report.pdf>
https://spiritof2012.org.uk/wp-content/uploads/2023/01/2023-01-18-Executive-Summary_SP-FINAL.pdf
<https://spiritof2012.org.uk/policy/inquiry/>
<http://www.spiritof2012.org.uk/>